

## ＜結び合わされた人＞

マルコ10：1～12



宣教活動の拠点ガリラヤのカペナウムの町を後にし、十字架に架かれるために都エルサレムに向かわれたイエス・キリスト。その旅の途上で・・・。

すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。【2節】

【映画ベンハー作者・ルー・ウォーレスの救い】

取り上げたのは離婚問題

\* 質問の背後にあった当時の社会情勢

- ①バプテスマのヨハネが、支配者ヘロデ・アンテパスの婚姻関係を公然と非難したことで首をはねられたことの影響。
- ②男性優位な社会で、男性が離婚の権限を持っていた。
- ③離婚に関して大きく2つの見解があった

\*元になっていたのは、申命記24章1節の解釈

人が妻をめとり夫となり、妻に何か恥ずべき事を発見したため、気に入らなくなり、離婚状を書いてその女の手に渡し、彼女を家から去らせる。

◆女性の弱い立場を保護する為に、離婚問題の規定は設けられていた。

しかし、パリサイ人たちは女性には離婚に関わる権利が与えられていないという考え方が前提にあった。

イエスさま 「モーセはあなたがたに、何と命じていますか。」  
パリサイ人 「モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。」

イエスさま 「モーセは、あなたがたの心がかたくななので、この命令をあなたがたに書いたのです。」

イエスさま 「しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。それゆえ、人はその父と母を離れ、ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」(創世記2：24)

- ◆人は、男女が互いに相手を必要とし「共に生きる存在」として造られたと語られたイエスさまの見解は、法的権利が持てず、物のように女性が扱われていた時代では画期的。パリサイ人達にとって想定外！

「あなたがたの心がかたくななので、この命令をあなたがたに書いた」  
頑なであることを認め、祝福のあり方を回復するようにとの、イエスさまの招き。

- ◆聖書が語る、結婚に対する教えは高尚。人をつくられた神が、人に与えられたかけがえのない大切なものであるから。しかし実際は、それとはかけ離れた現状がいつの時代にもあった。人の弱さ、人の欠け、人の自己中心的な生き方。神との関係が死んだ状態になって生きる者になった、罪人ゆえに婚姻関係は、人の根幹に触れてきて、多くを試される面がある。2千年前も、現代も。

【永田和宏さん／歌人・生物学者】